

市議団ニュース

連絡先

2015年11月29日号

杉野 修 58-9010 渡辺昌代 21-9058

石田利春 52-7260 平間益美 23-9519

【議員団控室（市役所4F）の住所・久喜市下早見85-3】

「日本共産党久喜市議団ブログ」更新中です

十一月定例会が始まります

12月1日から久喜市議会「11月定例会」が始まります。24日には告示され議案が配布されました。

議案は22件。報告が2件です。一般質問は、4日、7、8、9日の予定で、最終日は12月24日です。

総合振興計画、マスタープランの改定も

理科大学跡地の開発計画や、菖蒲のごみ焼却場・「市民の森」計画など新たな事業が計画されていますが、それらを進めるためには、現在の都市計画などの変更が必要とな

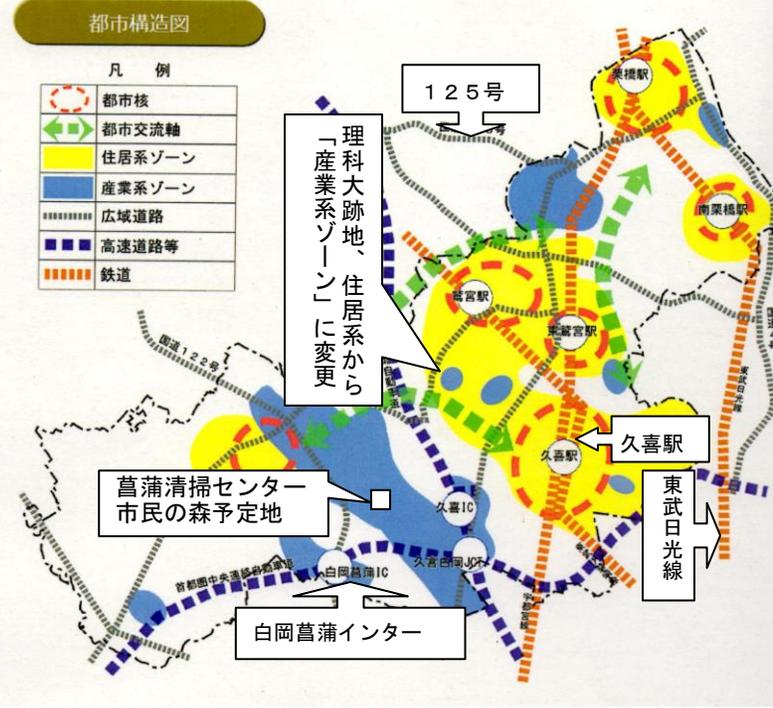
マイナンバー制度導入 関連議案も

議案では、税条例の改正や、介護保険条例、国民健康保険条例などで税番号の利用に関する改正が提案されます。

都市計画の変更箇所図面

一部改定案（新）

都市構造図 【P30】



平間ますみ

- 1 本町8丁目および久喜北陽高校西門周辺は少しの雨でも冠水する。対策を講じるべきである。
- 2 第6期介護保険事業計画について進捗状況と課題を伺う。

渡辺まさよ

- 1 今年度の学校・公園・工業団地緑地帯の除草作業はどうであったか。改善が必要では。
- 2 市民が生涯学習などで作った作品を展示できる場所を提供すべきでは。
- 3 生活困窮者自立支援の取り組み枠を拡げ、低所得者、生活困窮者の対策にもっと力を入れるべき。
- 4 市内各地で行なわれる祭り等の出店料（道路使用料）の改善策を

一般質問を通告しました

石田としはる

杉野おさむ

- 1 地下水位低下工法による液状化対策事業が着手された。課題について問う。
- 2 水道水で「にごり水」が栗橋地区で発生。危機管理体制などについて問う。
- 3 各総合支所にある建設課の統合は市民サービスの低下となる中止すべき。
- 4 国民健康保険税の引き下げを実施すべき
- 5 県立小児医療センター移転に伴う、診療体制について

- 1 東鷲宮駅東側での金融機関の再開に努力を
- 2 鷲宮運動広場にトイレと水はけ改善対策を
- 3 公共事業で働くすべての労働者に適正な労務単価を
- 4 粗大ごみのリサイクル事業の早期検討を
- 5 マイナンバー制度導入による問題解決を図れ

議員団でも、全国で同じ署名を集めている「戦争法の廃止を求める統一署名」に取り組んでいます。是非ご協力をお願い致します。



戦争法廃止の政府を！ 署名二千万人を目標に

日本共産党久喜市議団は、11月9日から11日の2泊3日で地域医療・福祉、リサイクル事業などの分野で先進事例となっている3自治体を視察しました。議員団は、この成果をまとめ、久喜市の行政に生かしていくと決意しています。

「地域包括ケアシステム」の発祥の地広島県尾道市に「みつぎ方式」の視察研修へ行ってきました。

みつぎ総合病院では介護保険がスタートする以前から、病院が核となり、訪問看護、リハビリを含む「医療の外出」を行ってきました。それは、前病院長である山口先生が、一命を救った患者が重度の床ずれなどで再入院して行く現実から「医療で患者の病は治しても、人を見る医療をしていなかった」と気づき、地域包括ケアの構築を進めたことが発端です。これまで、医療、介護、福祉がそれぞれ個々に患者に関わって進めていたケアを、連携させる「地域包括ケアシステム」を病院内に作っています。病院内には、行政部門である保健センターを、持たせ、市職員の保健師を採用し、包括支援センターも院内に置いていきます。さらに、介護施設（特養、グループホームなど）も併設し介護スタッフの顔がいつも見えています。

尾道市

講義、懇談のあと職員さんたちと記念の一枚。大歓迎に感謝です。



在宅ケアを軌道にのせるための患者一人一人のケアカンファレンスは、医師、看護師、保健師、介護スタッフ、ケアマネ、薬剤師、家族など必要と思われる多種職の方が集まり開かれています。現在の久喜市では行われていません。まさに人を見る医療、住民のニーズに応えられるような体制作りがされています。今後、久喜市においては「地域包括ケア」をどう医療と連携させるのが大きな課題です。

葛飾区



搬入された家具などを職員が直している

福岡県大牟田市「地域認知症ケアコミュニティ推進事業」座学と「高齢者総合ケアセンター」を視察しました。大牟田市は現在12万人の人口。高齢者数は4万人を超え、高齢化率は33.4%で、毎年1%ずつ増え2020年がピークになると推計しています。

「地域認知症ケアコミュニティ推進事業」は、「介護保険制度は、安心で満足のいくサービスを利用できなければ、だれもが保険料負担に理解を示すはずがない」この考えを基本として協議会が設置されました。認知症の人を地域全体で支え、認知症になっても、誰もが住み慣れた家や地域で、安心して豊かに暮らし続ける、そのためにいろいろ取り組みがされています。その中の一つに「地区高齢者SOSネット

ワーク」があり大牟田警察署を窓口とし18の企業・団体が参加しています。「発見まで3日、4日かかれば命をなくす危機がある。徘徊者は短時間で発見」との考えで、毎年模擬訓練を実施しています。

座学の後、特養ホームを視察しました。地域密着型小規模多機能ホームは、「通って」「泊まって」「時には訪問を受けられる」とても便利なケアです。92歳の女性のところには一日に4から5回訪問しているということです。高齢者の方が本心に安心できる体制がとられています。

視察を行って認知症対策・徘徊対策は「行政と地域そして事業者が関わった政策をとることがいかに大事であるか」久喜市も先進事例を研究・調査し取り組んでいくべきと感じました。

大牟田市



施設担当者から説明をうける議員団

ごみ減量で成果を上げている「葛飾区リサイクルセンター」の現場を視察しました。事業はシルバー人材センターに委託、粗大ゴミ集積は、民間施設2か所に設置し、毎日4回収、修理や磨きをかけ、販売できる製品にします。それらを販売拠点である「エコプラザ」に一日2回搬入。また、無償の物品を展示し、希望者に提供しています。

粗大ごみの物品は、タンス、机・テーブル・椅子・など。電気製品は扱っていません。扱った品数9863件、無料引渡し2379件、有償7232件、売れ残り252件です。リサイクル総量は重量に換算すると、123トンにもなります。

販売拠点「エコプラザ」は図書館と併設され、価格は500円と千円で限定販売、以外だったのは、区内在住、在勤で月3点までと購入者に条件をつけていることです。持ち込むとすぐ売れるものも多く、大きな別の倉庫は必要としないとのことでした。

葛飾区の事例は、久喜市でもすぐ実施できるものと確信しました。久喜市も新焼却場の設計に入る前に、粗大ごみの「リユース家具展示・販売」事業を実施し減量につなげることが重要です。